※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

挨　　拶

会　長
佐　藤　廣　士

皆さま，こんにちは。日本知的財産協会会長の佐藤でございます。

2018年度の定時社員総会が無事終了し，経済産業研究所の中島理事長様の時宜を得たご講演をいただいたところで，一言ご挨拶を申し上げます。

ご承知のように，当協会は，1938年の９月９日の節句にちなんだのでしょう，重陽会という名前で，わずか数社の勉強会として発足いたしましたが，今年の９月で80周年を迎えることとなりました。現在では，正会員と賛助会員あわせておよそ1,300を数えるまでに成長して参りましたが，これもひとえに，会員の皆さまはもとより，行政や地域社会の方々をはじめとする全ての関係者の皆さまのご支援とご尽力の賜物であり，心より敬意と感謝を表するものでございます。

さて，近年，産業界においては，AI，ビッグデータ，IoTに代表されるIT技術の急速な進歩によって，様々なイノベーションが生みだされると同時に，人々の価値観も多様化していくという，社会的な規模での大きな変革期を迎えています。

このような環境変化のなかで，知的財産に関しても，その保護のあり方がグローバルな規模で議論されています。今年２月に開催しました第17回のJIPA知財シンポジウムでも，「近未来の知財～Connected Industries～」をテーマに，変革期の事業を成功に導くために知的財産部門が果たすべき役割について考えました。

当協会は，これまでも，より良い知財環境を実現するために，国内外を問わず，さまざまな提言をして参りましたが，今後も，環境変化をいち早くとらえて，活動に反映していきたいと考えております。

また，これからの企業における知財活動においては，経営に資する知財活動をどう実現するか，そして，そのための人材育成をどうするか，という視点がますます重要になってくると思われます。

知財パーソンには，知的財産をどのように扱うことが最適なのかを，経済や産業さらには政治の動向もみながら，さまざまな情報を総合的に判断して，経営層に発信することが求められていくなか，当協会といたしましても，このような人材の育成に資するよう，研修活動などを通じて精力的に取り組んでいく所存でございます。

最後になりましたが，本年度も「Creating IP Vision for the World」のスローガンのもと，会員の皆さまとともに，当協会の発展に尽力していく所存でございますので，何卒，ご支援とご協力をお願い申し上げます。

会員の皆さまのご繁栄とご活躍を祈念しまして，簡単ではございますが，わたくしの挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。